

平成30年度事業報告について

福井県健康管理協会は、新法人移行後、第1次中期事業計画に基づき、事業展開を行ってきた。しかし、協会を取り巻く社会環境が大きく変化し、今後の協会の置かれた状況が厳しくなることが予想される中、こうした変化に柔軟に対応しながら、各事業を効果的に推進するために、第2次中期事業計画を策定し、協会職員が一体となって、県民の健康管理の一翼を担う団体を目指し、事業に取り組むこととしている。平成30年度は、第2次中期事業計画の初年度であり、計画に盛り込まれた事業の着手および推進を行った。

主な取り組みとして、がん検診事業に関しては、胃内視鏡検診画像のダブルチェックの運用開始や、国や県が目指している精検受診率90%に向けた、受診勧奨センターの活用の見直し等、がん検診の精度向上に努めた。また、フィルム検診車の廃止や、健康診断システムの改修により、集団検診業務の効率化を図った。さらに、健康関連の情報発信の今後の在り方について検討し、協会一体となって取り組んだ。

ふくい健康の森管理運営事業に関して、県民健康センターでは、がん検診事業と両立できるよう効率的な運用の強化や、システムの改修などによる業務の効率化を図った。また、顧客ニーズに合わせたコースの見直しをすることにより、新規受診者獲得に努めた。けんこうスポーツセンターでは、健康スポーツ公園の改修工事による供用停止に伴う利用者数減が予想された。その対策として、集客率の高い夏場の利用者を対象とした広報活動を強化したり、高齢化社会に適応する取組みとしてサルコペニア対策等の教室の開催により、利用者数減に歯止めをかけることに努めた。生きがい交流センターでは、入浴施設の床面改修工事終了に伴う“リニューアルイベント”等の企画や、利用者ニーズに沿った取組みをすることにより、利用者の回復に努めた。また、がん検診に関する啓発企画等、協会の特長を生かした取組みをすることで、類似施設との差別化を図り、新規利用者獲得に努めた。

1. 生活習慣病予防・健康管理に関する事業

がん対策基本法に基づき、県民全体のがん予防を推進するため、検診車の派遣等によるがん検診、県民健康センターでのがん検診を含めた健康診査事業を行い、一元的管理による効果的ながん対策に取り組むとともに、必要な情報の提供等を行った。

(1)がん検診事業

① 精度管理の向上

がん検診の信頼性・実効性を担保する精度管理の重要性を踏まえ、その一層の向上に努めた。主に、肺がん検診完全デジタル化移行に伴う体制の整備を追加し、肺がん検診のIT関連を再構築した。これにより、比較読影画像の表示システムが改修され、肺がん読影の精度を向上した。

- ・胃内視鏡検診画像ダブルチェック内視鏡検診の運用開始
- ・肺がん 精密検診報告書の見直し
- ・読影の画像参照ビューワーのシステムアップ
- ・複数画像のフィルム出力への対応

② 集団検診の受診者確保

小規模事業所を対象とする検診受診の啓発や、県・市町等と連携した受診勧奨、啓発イベントでの出展を通し、受診者確保に努めた。

- ・小規模事業所対象の出前検診
- ・アンケート調査による効率的ながん検診の啓発・勧奨（県と連携）

② 個別検診体制の強化

集団検診業務を中心とした既存業務の効率化を図ることにより、個別検診の受入れ体制の強化に努めた。

- ・健康診断システム改修(職域検診)
- ・胃X線検診1号車(フィルム)廃車と胃がん検診業務効率化を検討した。
- ・がん検診事業状況の組織的な分析・検証体制を構築した。

④ 健康に関する情報発信機能の強化

WEBや広報媒体などを活用し、がんを主とした健康管理に資する情報を発信・提供する事により、県民に協会の存在意義と周知度の向上を図った。

- ・ポータルサイト「がんネットふくい」の内容を見直した。
- ・がんを主とした健康情報発信体制を検討した。

項目			30年度	29年度	(人) 比較増減	(%) 比較増減
合計	集団	地域	105,729	103,183	2,546	2.5
		職域	2,601	5,906	△ 3,305	56.0
	個別	73,323	65,095	8,228	12.6	
総合計			181,653	174,184	7,469	4.3

(2)がん検診受診勧奨事業

① 集団検診の受診者確保

受診勧奨センターについて、検診未受診者の勧奨だけでなく精検未受診者にも対応できるよう、運用体制の見直しを図った。

- ・精密検診受診促進事業

② 県内市町のがん検診の未受診者対象者に電話等で受診の勧奨を実施した。

勧奨者数 18,979人 (29年度 23,284人)

(3)健康診査事業

① 確実な検診業務の実施と健診内容の充実

特定保健指導の受入れ体制の強化や、健診内容の見直し等を行い、新規受診者確保に努める。

- ・特定保健指導の実施保険者拡大

	30年度	29年度	(人) 比較増減	(%) 比較増減
各種健康診査コース受診者	4,974	5,051	△77	△1.5

(4)無料健康相談・無料健康講座事業(県民健康センター)

一般県民を対象に、県民健康センターや生きがい交流センターで健康・ストレス・病気等に関する講

座や相談を実施した。

利用者数 465人 (29年度 437人)

(5) 啓発・キャンペーン事業

- ① がん征圧月間(9/1～9/30)・結核予防週間(9/24～9/30)の取組み
他団体や企業と連携協力し、がん征圧月間広告等の掲示依頼やがん征圧月間ポスターや結核予防ポスター等の配布、パネル展開催、マスコミを利用した広告、広報活動等を実施した。
・結核予防週間 エルパ街頭啓発 9/24 鯖江アルプラザ街頭啓発 9/29
- ② 県、市町との連携
県が開催する健康増進イベントへの協力および広報活動の連携や市町が開催する健康フェアへの参加を通じ、疾病予防と健康づくりの啓発活動に協力した。
・越前町 いきいき健康フェア 10/27 パネル貸出
・鯖江市 さばえ食と健康・福祉フェア 10/21 パネル貸出
・鯖江市 吉川地区健康フェア 11/25 大腸がん採便モデル貸出
・大野市 越前おおの産業と食彩フェア2018 10/20～10/21 パネル貸出
・福井県丹南健康福祉センター 丹南地区小学校での喫煙防止教室 1/23～1/24
・福井県立図書館フェア 2/23 パネル貸出
- ③ 関係機関、団体等との連携
医師会やピンクリボンの会(ピンクリボンキャンペーン)、がん克服の会などの活動に積極的に参画、協力を行った。
・乳がん検診普及啓発ライトアップ 福井駅ビル・ハピリン・アオッサ 10/1～10/2
- ④ 日本対がん協会グループ福井県支部としての活動
リレー・フォー・ライフ・ジャパン ふくいを開催した。
参加チーム 40 (29年度 参加チーム 43)
参加者数 900人 (29年度 参加者数 900人)
【うちサバイバー 200人 (29年度 120人)】
寄付額 476,888円 (29年度 478,867円)
日本対がん協会・福井大学と連携し、子宮頸がん検診・未受診者対策としての自己採取HPV検査の有用性検証を開始した。(1月～)
- ⑤ 講演会・研修会の開催
市町が主催する講演会に講師を派遣するほか、健康づくり従事者を対象に専門的な研修会を開催し、専門分野に関する情報提供を行った。
医師講演 17回(住民対象 11回、企業等各種団体 6回)
従事者研修会(市職員対象)嶺北・嶺南各2回6月、12月

2. 健康づくり・体力づくり・生きがいくくり推進事業

「ふくい健康の森」の施設を活かし、県民の健康づくり・体力づくり・生きがいくくりを一体的に推進するための各種教室の開催や施設の提供を行った。

(1) 健康増進各種教室・運動障害回復訓練事業（県民健康センター）

生涯を通じて積極的な健康づくりのために、運動・栄養・休養のバランスのとれた生活習慣の確立をめざして、リラクゼーション教室、ヘルシー栄養教室等の健康増進各種教室および地域リハビリテーション事業（地域支援事業）の運動障害回復訓練事業を実施した。

健康増進各種教室	利用者数	208人	(29年度	215人)
運動障害回復訓練	利用者数	3,874人	(29年度	3,022人)

(2) 運動プログラム指導事業（けんこうスポーツセンター）

個人の健康づくりへの支援として、個別運動プログラムの発行、体力テストおよび3か月減量講座等を実施し、きめ細かなアドバイスを行った。

利用者数	10,601人	(29年度	9,911人)
------	---------	-------	---------

(3) 生きがいつくり推進事業(生きがい交流センター)

世代間の交流、趣味を広げ楽しみながら生きがいつくりに取り組めるよう、県老人クラブ連合会との連携事業をはじめ、生きがい創作講座、親子チャレンジ講座、文化講座等を開催するとともに、ふれあいコンサートや似顔絵展を開催し、利用者にやすらぎの場を提供することにより、類似施設との差別化に努め、利用者増を図った。

生きがい創作教室	利用者数	11,264人	(29年度	9,001人)
----------	------	---------	-------	---------

(4) 体力づくり教室事業(けんこうスポーツセンター)

様々な年齢や体力に合わせた、フラダンス、キッズダンス等の健康教室および初・中級者向けのテニス教室や水泳教室を開催した。また、利用者ニーズに対応した教室を開催し体力づくりの実践指導を行った。特に、協会の特長を生かした教室事業の強化を図ることにより、類似施設との差別化に努め、利用者増を図った。

体力づくり教室	利用者数	62,711人	(29年度	60,630人)
---------	------	---------	-------	----------

(5) 施設の提供事業

① 健康管理協会、ふくい健康の森広報の強化（各施設）

広報媒体を活用した効果的な広報活動や、今までのイメージから脱却した取組みにより、新規利用者の獲得を図った。

- ・夏季繁忙期による集客強化対策 YAHOO! 広告の掲載
- ・県内および近隣県への広報拡大
- ・他団体主催のイベント誘致場所提供

② 各施設運営の改善

利用者の意見を反映した環境づくりに努め、利用者にとって快適な施設環境の提供に努めた。
(県民健康センター)

健康の増進に関する会議、研修等に会議室等の施設を提供した。

	30年度	29年度	比較増減	比較増減率
会議室、研修室、オリエンテーション室	1,180	1,200	△20	△1.7
計	1,180	1,200	△20	△1.7

(けんこうスポーツセンター)

温水プールやトレーニングジム、テニスコート等の屋内外の各種運動施設を効果的に活用することにより、子供から大人まで幅広い年齢層を対象に、楽しみながら運動を実践できる場を提供した。

	30年度	29年度	比較増減	比較増減率
けんこうスポーツセンター・温水プール	207,709	200,446	7,263	3.6
健康スポーツ公園	71,400	70,500	900	1.3
計	279,109	270,946	8,163	3.0

(生きがい交流センター)

「健康の森温泉」として、季節の替わり湯の実施や屋内外に季節感の演出等、入浴に関する情報提供を充実させるなど独自色をアピールすることにより他の施設との差別化を図り、利用者の心身が安らげる場の提供に努めた。また、会議、研修等の場として交流ホール、ふれあい研修室等の施設を提供した。

	30年度	29年度	比較増減	比較増減率
健康の森温泉	133,663	111,623	22,040	19.8
交流ホール等	6,114	6,858	△744	△10.9
計	139,777	118,481	21,296	18.0

3. 健康管理・健康づくりに関する広報、調査研究事業

がん検診を含めた生活習慣病予防・健康管理に関する事業と健康づくり・体力づくり・生きがいづくり推進事業に関する事業等、協会の事業全体の広報や調査研究を行った。

(1) 研究・研修事業

がん検診に関する読影精度の向上など健康管理・健康づくりの技術の進歩を図るため、各部位別研究会等を開催し、研究成果を発表した。

- ・胃、大腸検診研究会 他 17回 参加者930人(29年度実績17回参加者970人)
- ・第35回日本臨床細胞学会北陸連合会学術集会発表 他 参加7回(29年度9回)

(2) 広報活動

① ふくい健康の森利用者へのサービス還元

健康の森の存在をアピールするため、けんこうスポーツセンター、生きがい交流センターの拠点連携による利用者還元イベント“けんもりふえすた”を開催した。また、福井テレビ主催の「わんぱくフェア」の会場誘致をはじめブース出展等、積極的に協力し、来場者に“ふくい健康の森”をアピールした。

- ・健康フェア「けんもりふえすた」の開催（10/28 来館者数 3,252人）
- ・わんぱくフェアの誘致、協力（4/28、29 来場者数 27,000人）
- ・健康の森温泉リニューアルイベントの実施（4/1 来場者数 948人）

② 健康管理協会、ふくい健康の森の広報の強化

マスコットキャラクターやWEB等を活用したふくい健康の森のアピール活動等、周知度の向上に努め、利用促進を図った。

- ・LINE会員拡大の取組（配信数26回 会員数804名）
- ・マスコットキャラクターグッズの配布（うちわ・ウェットティッシュ 等） 他
- ・情報誌「健康の森通信」等の発行（10,000部×4回/年）
- ・ホームページによる情報提供
- ・ロゴ、マスコットキャラクターの活用（ステッカーを作成し公用車4台に貼付）
（テレビ番組、イベント等 9回）

4. 事業報告付属明細書

一般社団法人及び一般社団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する付属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項：なし